

## 海外派遣留学プログラム 留学中報告書

所属：文学部

学年：4年

現在の学期：Semester Two

時間割：

| 曜日  | 履修科目名・時間等  |
|-----|--|
| 月   | 10:00-12:00<br>Researching Audiences (Lecture)<br><br>13:00-15:00<br>Genre: Critical and Creative Approaches (Lecture)<br><br>16:00-18:00<br>Academic Language Skills for Arts, Design & Social Sciences |
| 火   | 11:00-12:00<br>Genre: Critical and Creative Approaches (Seminar)<br><br>15:00-16:00<br>Film History (Lecture)  |
| 水   |  |
| 木   | 10:00-12:00<br>Film History (Seminar)  |
| 金   | 15:00-16:00<br>Researching Audiences (Lecture)   |
| 土・日 |  |

履修科目や近況について

○学業

授業は基本、週に60分×3コマの180分で行われます。(移動時間を加味してか10分ほど残して切り上げることが主です。)授業は、講義形式のLectureと話し合いや発言の機会が多いSeminarで構成され、この2つは別日に行われます。Seminarには予習が求められます。また、私が履修している科目は全て3000ワードの期末エッセイのみで評価されるため、今からすでに学期末が少し恐ろしいです。学部2年以上が対象である科目は

履修要件が課されることがあると案内があったため、千葉大での履修科目で関係がありそうなもののシラバスを自分で英訳したものを用意していましたが特に提出は求められず、問い合わせたところ、私のいる学部では提出の必要はなかったようです

以下で説明する履修科目を選ぶ際の基準は、映画と社会の関係について学べるかどうかです。私の学部は Film and Media という名前であり、映画だけでなく、インスタグラムや YouTube といった SNS も研究の対象になっています。シラバスを見て自分の興味に沿うかを確認しました。

Academic Language Skills for Arts, Design & Social Sciences は、週に 1 日、2 時間のみ行われます。留学生が受講する英語の講義であり、英語でのレポートの書き方、文献の調べ方、読み方などを学びます。授業内のプレゼンやライティングが評価の対象になりますが、「学部の授業より負担は重くないから気軽に」という説明が初回でありました。また、他の科目は点数に応じて 4 段階の評価が付きますが、この科目だけは合格/不合格の判断のみです。必修なので、私からすれば完璧な英語を話している学生たちも受講していますが、受講の必要がないと判断した学生は 5 週目に行われるテストを通過すれば今後は出席しなくてよいとのことでした。

Film History では、映画史が始まった 1890 年代から現代にいたるまで、映画がどのように製作され、観られ、研究されてきたかを学びます。例えば、今回はドイツ映画の Expressionism の特徴や、この潮流と第一次世界大戦後のドイツの情勢の関係についてでした。Seminar に向けた予習ではほぼ毎回論文 1, 2 本と映画 1 本の視聴が課されます。この科目に限ったことではありませんが、予習のリーディングへの向き合い方については、最初は単語を調べながら全文をできるだけ自力で読むようにしていましたが、今はテクノロジーの力を借りつつ重要な部分だけ精読して内容を掴むようにしています。今の私には、読むことに使う時間を少し調整し、自分の考えを英語で話す練習の方に時間を割く必要があると思ったためです。予習の映画は英語の字幕を付けて、何度も一時停止、巻き戻ししながら見えています。

Researching Audiences ではメディアの受け手に着目した研究の先例を学び、それに倣って自分たちでも調査を行います。前回の内容は、メディアを受動的に消費するだけの存在として受け手を捉える見方から、受け手の背景を重視する姿勢へと研究の態度が変化したことについてでした。講義の聞き取りについては、やはり教授の英語のアクセントは人によって様々ですが、早口の北米アクセントの教授よりも、何かしらの訛りがあってもゆっくり話す教授の方が理解しやすいと感じています。スピードに加え、固有名詞が頻発することで話を追えなくなることが多いです。

話は変わりますが、この科目の今週の Seminar はストライキによって中止になります。大学の設備はよく整っており、お金があるのかと思っていましたが、どうやら財政状況が

芳しくなく教授陣が負担を被りそうになっているそうです。来週もストライキが数日予定されており、今後の動きを注視しようと思います。

Genre: Critical and Creative Approaches は映画のジャンルの重要性やその変容に着目します。グループでの話し合いが多い科目であり、苦勞しています。映画という身近なテーマとあって、話したいことは何となく浮かぶのですが、英語が浮かばなかったり、現地の学生のスピードについていけなかったり、怖気づいたりという感じです。うまくやろうとして結局、第一声が出せず後悔するという流れが多いように思います。3週目を終え、もう中盤に差し掛かっているため発言の頻度を上げたいと思う日々です。

### ○寮

満足しています。2番目に安い寮で、男女5人でキッチンとバスルームを共用しています(男女で共用と聞いたときは衝撃を受けました。性別が統一されている部屋もあるようですが、私が寮を申し込んだ際には女性だけの部屋は残っていませんでした。)が、掃除の係も決め、今のところトラブルなく過ごせており、「みんな良い人でよかったね」と話しています。5人とも留学生であり、私を含め、出身国は日本、メキシコ、ドイツ、チリです。メキシコからの留学生とは運よく学部も同じであり、一番よく一緒に過ごしています。5人もいれば料理や食事のタイミングが被ることはよくありますが、それも会話の機会と捉えています。彼らとは、この一か月の間に、カードゲームをしたり、近くで買い物に行ったりして、友人と呼べる関係性にはなったと感じています。

私の場合は、このように気さくな人たちに恵まれましたが、他の寮に住んでいる友人は、顔を見たことない隣人もいる、フランス語話者が多いために、皆でいるときにフランス語で会話されてしまって疎外感を感じているという話をしていました。隣人関係は運が大きいと感じています。

私が大学に入ってから一人暮らしをしていたアパートは千葉大から自転車で10分、徒歩なら25分とやや離れたところでしたが、今の寮は大学まで徒歩3分です。男女共用だし古そうだと不安が大きかった寮ですが、大学からの近さと、他の寮と比べてときの価格を加味すると、結局は良い決断だったと思います。

不満は特にはないのですが、あるとすれば防音性の低さとメンテナンス関係です。壁が薄いので、部屋や廊下にいると、隣人の生活している音や電話している声が聞こえます。また、窓も外からの音を通しやすく、私の部屋は道路に面しているため、窓を閉めていても、夜にお酒を飲んで元気になった人たちの声が聞こえることもあります。

メンテナンスについては、私の場合、エレベーターの修理が長引き、部屋のある4階まで階段で2週間ほど行かなくてはいけなかったとか、バスタブの隅が黒く変色していて気分が悪いという比較的可わいいものですが、不運な友人の場合は、この真冬に部屋のヒーターが故障しているのに修理業者が来るのを2週間待たなくてはいけなかったり、キッチンの2つの換気扇が片方動かなくなったりするそうです。この友人の寮は部屋にバス

ルームが付いているタイプなので 1 週間当たり 1 万円ほど私の寮より高いのですが、かといってメンテナンスが丁寧ということではないようです。

#### ○支払い

現金が必要になる場面は、観光地での有料トイレか、募金をしたいときだけではないかと思うほど、カードだけで生きています。お店に行った際も、支払い方法を尋ねられる前にカード支払いの機械を差し出されます。私は、以前の海外旅行の際に作った Wise というデビットカードを使っており、日々の買い物や家賃、洗濯、バスや電車の運賃の支払いも今のところ問題なく使えています。

#### ○人種差別 (?) とやさしさ

ひどいものにはまだ遭っていません。旅行先や大学の近くを歩っていたときすれ違いざまに何か言われたことがありましたが、定石どおりに無視しました。一緒にいた友人はパッと見た感じでは現地の人のような外見なので、私に向けられた言葉だったのかと後になって気が付き、少し考えさせられました。

留学生の多い町とあって、キャンパスでも町でも外国人をよく見かけます。しかし、中にはそれを良く思わない人がいたり、お酒を飲んで気が大きくなると色々口走ってしまう人がいたりするのだと思います。心配する必要はないと思いますが、何か言われても気にしない心構えはあると良いです。

しかし、それ以上に気さくな人をたくさん見てきたことを強調しておきたいです。図書館やお店の入り口で自分のすぐ後に入る人がいたときに、当たり前のようにドアを押さえてくれる人や、会計のときに笑顔で送ってくれる人がいます。少しでもぶつかりそうになった時に、きちんと声を出して”Sorry”と伝えるのも好きなところです。

#### ○食事

一人暮らしをしていたときと変わらず、基本は自炊しています。外食はどこへ行っても日本人の金銭感覚からすると高く、「今日はちょっと疲れたから〇〇で食べよう」ができなかったり、私がよくお世話になっていたような、安くて量もある冷凍パスタなどが売ってなかったりということはあるのですが、ないものはしょうがないと分かると案外何とかなるものだと感じます。

また、ここ 1 か月、主食はパンかパスタなのですが、まだ白米が恋しくなったことはありません。2 週間の短期留学の時は食事がストレスだったのですが、自炊ができて日本食でなくとも好きなものを食べられることが私には大きいようです。食材はものによっては日本と変わらない(または割安?)のものもあります。例えば、私がほぼ毎日行っている、寮から徒歩 3 分ほどの Sainsbury's というスーパーでは、キウイが 6 個で 415 円、パスタが 500 グラムで 124 円で売っていました。近所の大手のスーパーは Tesco か Sainsbury's の 2 つで、価格はどちらが安いということもなさそうですが、前者にはお得

に買い物ができるアプリがあるようです。また、私はまだ試したことがありませんが、近くのマーケットではよりお得に食材を手に入れられると聞きました。

#### ○交友関係

気の合う留学生の友人ができ、運よく何とかなっています。しかし、現地の学生の中に友人と呼べる人はいないのが現状です。大学が主催する留学生のイベントを通じて留学生同士が知り合う機会はありますが、留学生以外と関わりとなると、サークルに参加するなど、自分からアクションを起こす必要があると感じます。私はまだ、料理や編み物など、気軽に参加できそうなものを調べている段階です。

また、大学に日本人は多くありません。寮やキャンパスを見ていると、東アジアからは中国人や韓国人の留学生が多いのかなと思います。今までに会った日本人は1人で、その学生も日本からではなくタイの大学から来ていました。日本人どうして固まってしまふことを懸念していた私としてはこれはメリットであり、ノーザンプリア大学をおすすめできる理由の一つでもあります。

今までを振り返ると、どのコミュニティでも私はたいい「狭く深く」の友人関係を築いてきました。それはここでも変わらず、仲の良い2人と一緒にいることが多いのですが、最近になってそれでも良いのかと疑問を感じています。この環境を生かすなら、もっと色々な人と関わるべきだと思うのですが、自身の性格と英語の拙さがハードルになっています。帰国後のレポートを書く頃にはこの気持ちに少しでも何かしらの変化が見られればと思います。

こうしてこの1か月を振り返ると、満足している点とそうでない点に気が付きました。あっという間に時間は過ぎてしまいます。2か月目以降もこの場所にいられることの価値を忘れずに、できるだけ多くの点に満足した状態で帰路に就けるよう、日々を大切に過ごしたいです。



←↓5人で共用しているキッチンとダイニングスペースです。オーブン、電子レンジ、ケトル、トースターは寮のもの、その他の調理器具は自分たちで買って一緒に使っています。



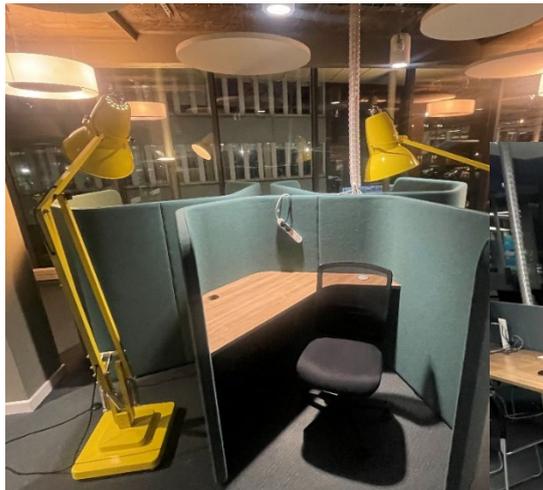
↓大学の建物は全体的に新しいです。



→寮の部屋です。小さいですが綺麗で古さは感じませんし、一人で暮らす分にはちょうど良いと思っています。

日本で一人暮らしをしていたときの部屋より気に入っています。





↑ → 図書館は 24 時間開いていて、  
とても快適です。

また、入口のところに Ask4Help という、なんでも相談窓口のようなものが併設されており、私も履修関係のことで利用しました。



← 大学に門などは特になく、この道をまっ  
すぐ行くとすぐにお店が並ぶ大通りに着  
きます。

→ 恐らくご当地スポット的な立ち位置  
の、Engel of the North という像です。  
よく一緒にいる 3 人グループで初めて  
出かけた思い出の場所です。土日のどち  
らかは 3 人で出かけています。





←留学生のパーティーです。飲み会しか知らない私には初めての世界で、この写真の後テーブルに登って踊って歌う学生たちを、ただただ見ていました。（しっかり楽しみました。）この1か月は留学生向けのイベントがほぼ毎週あり、娯楽には事欠きませんでした。